



# ハートフルナース

## 日本の在宅看護普及に向けて

5月4日(土)、インドネシア・中央ジャカルタのFXレジデンスにて、順天堂大学医療看護学部野崎真奈美教授を講師としてお招きし、「日



本の在宅看護の考え方をインドネシアに」と題したセミナーを開催しました。本セミナーは、日本のように今後インドネシアでも高齢化や核家族化が進んでいくことが予想される中、日本とインドネシアの在宅看護の違い及び日本の訪問看護師の果たしている役割について伝えることを目的にしており、今回はインドネシアの医師やホームケアをしている看護師、EPAとして日本の病院や施設で働いたことのある看護師、大学教員ら23名の方々にご参加いただきました。



DVD教材を用いて解説を行う野崎教授

はじめに野崎教授より、日本の訪問看護・介護の仕組みについて紹介いただいた後、具体的な事例を再現して制作したDVD教材を用いて、在宅看護のポイントについて解説をいただきました。

会場からは多くの質問があり、改めて日本の医療・看護への関心の深さを感じました。参加者からの情報によると、インドネシアでは入院費用が高額なため、在宅での療養を希望される方が多いとのこと。社会保障実施機関の方からは「インドネシアではまだ介護サービスのシステムはできていないが、必要性は感じており、検討のプロセスにある。」とのお話を伺いました。



参加された方々と記念撮影

また、日本とインドネシアの看護の違いの一つに、「自立に対する考え方」があります。元EPAで来日経験を持つインドネシア人看護師によると、「インドネシア人は、お金を支払い、自宅に来て

もらう看護師や介護士には、すべて手伝ってもらうことを当たり前と考えるため、日本人のように「自分でできることはなるべく人の助けを借りないで生活したい」と思う人は少ない。」との意見をいただきました。

今後は、「自立を促す」という日本の看護・介護観について、今回の情報と意見を活かし、インドネシア人に伝えていこうと考えております。